

新公害源に塩酸ガス

チッソ水俣工場 会社側も対策を検討

水俣市のチッソ水俣工場の公害源が塩酸ガスにシフトされてきた。合理化計画に伴って各原料部門の工場が閉鎖されるため、残る肥料部門のカリ変成工場と新しく建設されている塩ビモノマー工場からの塩酸ガスの二つ。

同工場ではすでに一月にガス化、アンモニア合成、電解、カーバイド開放炉が閉鎖され、三月末

までに塩ビモノマー、カーバイド密閉炉、硫酸、硝酸の各工場が停止する。これでこれまで各工場から出ていた酸液、ばい煙もなくなり、公害源は少なくなることが予想される。この結果、注目されるのが塩酸ガス。工場側も、さきの市の公害総点検の際にも今後の公害源としてこの塩酸ガスをあけて

いた。塩酸ガスが最も多く発生す

るのはカリ変成工場。塩化カリと硫酸を混ぜる際塩酸ガスが発生する。刺激臭のあるガスで、昨年九月には煙道にガスを送り込むファンがこわれて工場裏の丸島地区にガスが流れ出し、住民が工場に押し

かけたこともある。また現在試運転中の新しいオキシクロリネーション法による塩ビモノマー工場は

カリ変成工場からの塩化水素（水にとかせば塩酸）を利用する。二月二十五日にはガス除去のテスト中に一部ガスがもれ、工場隣接の住民が「ノドが痛む」とやはり工

場に抗議している。

これに対し工場は、製品などに

ガスを集めて洗じようする方法などを検討し、すでに工事中のものもある。またオキシクロリネからは有機塩素化合物を含む有害な副生油が出るが、これは海洋投棄をやめ燃焼させて塩酸として回収する方針。

も塩酸ガスが付着して残っているものも公害源になるとして、この